

JDS Network News

発行元：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）



表紙：ラオス カオチーパテの屋台

Topics

活躍する帰国留学生（バングラデシュ）

- ◆ 活躍する帰国留学生（カンボジア）
- ◆ JICE中部支所にて、「なごやめし」の紹介とJDS留学生との交流会を開催
- ◆ ほっとひと息：ブータン



Ms. Zaheda Parveen (ジャハダ・パルビン氏)

九州大学大学院法学府、2006年修了、内閣府次官



ジャハダ・パルビン氏

出典： [Bangladesh National Portal](https://www.bangladeshnationalportal.gov.bd/)

2025年2月、ジャハダ・パルビン氏は内閣府次官に就任しました。ジャハダ氏は、JDSバングラデシュの3期生として2004年に来日し、九州大学大学院法学府の修士課程に留学しました。

ジャハダ氏は、JDS留学時は人事省に勤務していましたが、帰国後、内閣府次官補を経て、今回、内閣府次官に就任しました。

ジャハダ氏は、政府内の改革、グッドガバナンスの実施と監視を担当しています。今回の昇進にあたっては、「九州大学での修士号の取得に加え、JDS留学を通して学んだ日本の司法制度に関する知識と日本人から学んだ日本らしい考え方が、他の職員とは異なる付加価値となり評価されたお陰だと思っている」とコメントがありました。

JDS留学時の研究テーマには「Various Issues in the Administration of Criminal Justice: A Comparative Study on Japan, USA and Bangladesh」を選び、経済法や商事法を含む法分野における専門知識を深めたそうです。

留学中はホームステイを通して積極的に日本の文化を体験したとのこと。ジャハダ氏からは、「日本での留学で学んだ日本人の考え方や、社会の在り方は、母国をよりよくするための新しいアイデアを考えるきっかけとなりました」とも言及がありました。

ジャハダ氏はJICAの[青年研修事業](#)に参加したことをきっかけに、日本での長期留学に興味を持ちJDSへの応募を決めたそうです。

ジャハダ氏がJDS留学で得た知識と経験を活かし、バングラデシュの発展にさらに貢献することが期待されています。



Mr. Kru Veasna (クリュウ・ヴェスナー氏)

国際大学大学院国際経営学研究科、2003年修了、カンボジア国立銀行事務総長

カンボジア国立銀行(NBC)の事務総長(Secretary General)であるクリュウ・ヴェスナー氏は、カンボジアのデジタル金融の発展に大きく寄与してきました。JDSカンボジアの初代卒業生として、同氏の国際的な視点はNBCおよびカンボジアの金融革新にとって貴重な財産となっています。

NBCは、2016年からの入念な調査研究を経て、2020年にカンボジアの次世代リアルタイム総合決済(RTGS)システム「Bakong(バコン)」の立ち上げに成功しました。



クリュウ・ヴェスナー氏

日本のスタートアップ企業ソラミツ社との協働で開発されたBakongは、キャッシュレス決済や送金ができるモバイルアプリでiOSおよびAndroidで多くの人が利用可能です。Bakongの名前はアンコールワット遺跡群にある9世紀に建造された寺院の名前に由来します。

Bakongの構想は2016年に始まりました。NBCはヴェスナー氏をリーダーとするワーキンググループを結成し、支払いシステムのためのブロックチェーンおよび分散台帳技術(DLT)を探求しました。この取り組みは2017年初頭に「Bakongプロジェクト」に進化し、4月には日本のソラミツ社が正式に事業者として選ばれ、同年内にプロトタイプを開発、2018年にさらに精緻化され、Bakongシステムに国内金融機関が相互接続できるようになりました。

この取り組みは、カンボジアの金融・経済面におけるデジタル技術の適応力を向上させ、国際的な協業を推進する土台を築きました。Bakongの開発により、カンボジアの決済システムの近代化と発展が図られ、2022年におけるカンボジアの電子決済額は国内総生産(GDP)の約1,000%に達し、世界最高水準になったことが報じられています。そして、東南アジア諸国との越境決済だけでなく、2023年にはカンボジアと日本の経済産業省が協力覚書を締結し、今後QRコードを使った日本との越境決済も可能となる予定です。

NBCとソラミツ社とのパートナーシップは、ヴェスナー氏が日本で生活し学んだ経験を通じて培われた日本への信頼に基づいているそうです。同氏からは、「世界中でBakongへの協力事業者を探していたが、自身が留学した日本やそのメンタリティへの信頼感があった。日本に留学し文化に浸ることが、時を経て日本やソラミツ社との協力関係の土台になった」とコメントがありました。

JICE中部支所にて、「なごやめし」の紹介と JDS留学生との交流会を開催



レクチャーの様子

レクチャーでは、「なごやめし」発祥の地である名古屋市の歴史・文化・産業に触れつつ、「なごやめし」が名古屋市の一大観光コンテンツにまで発展した秘話等が紹介されました。更に、第20回アジア競技大会(2026/愛知・名古屋)を目前に、名古屋市内の飲食業者が様々な食文化に対応した「なごやめし」やサービスの拡充に取り組んでいる試みが紹介されました。

JDS留学生は「なごやめし」についてのレクチャーの後に、串カツ・手羽先・小倉トーストの試食を通して食文化の体験をすることができました。



講師とJDS留学生との集合写真

2025年3月7日、JICE中部支所は、公益財団法人名古屋観光コンベンションビューローから講師を招き、名古屋市の文化理解の一環として「なごやめし」について、JDS留学生を対象としたレクチャーを行いました。



なごやめし試食会

留学生達からは、「普段食べる機会があまりない『なごやめし』を味わうことができ、どれもとても美味しかった。そして名古屋をより深く知ることができた」等の意見が寄せられました。

SINCE 1999



Where
Leaders
are made.



JDS

The Project for
Human Resource Development
Scholarship



ブータンは南アジアに位置する美しい立憲君主制国家で、チベット系仏教が国の中心となっています。国民総幸福量(GNH)を重視し、経済成長だけでなく文化遺産や自然環境の保全も目指している豊かな自然と独自の文化が魅力的な国です。今回はそんなブータンの調味料や軽食をご紹介します。



【Ezay (エゼ)】

唐辛子と塩をベースとしたペースト状の調味料です。お店や作り手によって、ブラックペッパーやニンニク、玉ねぎ等が含まれていたり、液体に近いペースト状のもの、唐辛子の皮や種の食感が残っているもの等様々です。伝統的なあらゆるブータン料理にはもちろん、中華・イタリアン等の料理にも合わせて提供されます。エゼはどんなレストランにも常備されている定番の調味料です。

【Khapse (カプセ)】

カプセは小麦粉でつくられるビスケット状の焼き菓子の名称で、チベットの結婚式等の特別な日に食べることもあります。「ツォ」と呼ばれる祠にお供えされる口バの耳の形をした巨大なものから、大きな三つ編みの形をしたもの、一口サイズのダイヤモンド型のもの等、様々な形状のカプセがあります。味も甘いものから辛いものまでバリエーションに富んでいます。



【Maykhu (マクー)】

ブータンの伝統的なライスクラッカーで、細かい米粉と少量の塩で作られます。生地を薄く丸く伸ばして天日干しにし、揚げることで、カリカリとした食感が楽しめます。赤と白の2種類のマクーに加えて、塩・チリパウダー・黒コショウ等のスパイスが加えられた種類もあります。市場や祭りの屋台で、1袋6個入り200BTN(約340円)等で販売されています。

JDS 3つの特徴

1

行政官限定事業

※一部例外がございます

2

6,345名 23カ国の実績

※事業終了国の人数も含む ※2024年度までの人数

3

大臣・局長級を輩出

対応国の社会・経済開発計画の立案・実施に関わる若手行政官が日本で修士号または博士号を取得しています

出身省庁…財務・経済、法務、行政、環境、インフラ、教育等

<JDS実施国 (JICE)> ※受入開始年順

ウズベキスタン、ラオス、カンボジア、ベトナム、モンゴル、
バングラデシュ、フィリピン、キルギス、タジキスタン、
スリランカ、東ティモール、パキスタン、ブータン、モルディブ、
ケニア、セネガル、ウクライナ

※中国は2012年、インドネシアは2006年に事業終了しました。

日本で専門知識を身に付け帰国した留学生は、
日本との政策対話に携わり二国間強化に寄与する等、
様々な場面で活躍しています。

人材育成奨学計画 (JDS) は無償資金協力による
JICA留学生事業です。

編集後記

JDS Network News (JNN) をお読みいただき、ありがとうございます。

バングラデシュでは、女性のJDS留学生を一人でも多く日本に送るために様々な試みを行っていますが、文化宗教的な理由や対象者である公務員では女性の比率が男性に比べて低い点等があり、女性留学生は他国に比べて少ない状況です。その中で、今回女性の帰国留学生が内閣府の次官に昇進したので、現地の事業関係者は喜びで沸いています。

こういった活躍する女性の帰国留学生がキャリアモデルとなり、今後、バングラデシュの優秀な女性行政官が積極的にJDSへ応募してくれることを期待したいところです。

JDS事業に関するご質問がございましたら、お気軽にメールで弊センターまでお問合せください。また、本誌へのご意見・ご感想もお待ちしております。

【お問い合わせ先】

一般財団法人日本国際協力センター (JICE)
留学生事業第一部留学生事業課広報担当
E-MAIL: jds.pr@jice.org